





#### 4 まとめと今後の課題

今回対象とした期間では、計測震度が 3.5 程度、最大速度が 3cm/s 程度から大きく水位変化を示すデータが増加する傾向が認められ、地震時の地下水の挙動を考える上で重要であると考えられる。引き続き観測を継続するとともに、さらに詳細な関係についても検討する必要がある。

#### 5 引用文献

- 1) 荻津・香川、2021、千葉県環境研究センター年報